

3. <地域活動報告③>

「いつだって心は生きている～大切なものを見つけよう～」

(福岡県大牟田市/市民有志および自治体)

癒しコンサート

(子どもたちとともに作った認知症ケア教室での絵本の朗読と音楽、対談)

★絵本で伝えたいこと

本日朗読いたします「絵本」は、このような活動の一つとして、「認知症の人の理解を広めるためには子供のときから触れることが大切」という実態調査の市民の声やデンマークの絵本にヒントを得て、平成15年度事業として認知症ケア研究会が地域の24人の子供たちと介護家族、そして認知症の人本人の力を借りて作成したものです。



★絵本を使った啓発活動

現在、市内の小中学校での総合学習や地域の認知症ケア教室などで、絵本を活用した「絵本教室」を展開しています。

絵本「いつだって心は生きている ～大切なものを見つけよう～」のねらい

- 1) 認知症の人の姿や気持ち、豊かな力を正しく伝えたい
- 2) 認知症という病気について正しく伝えたい
- 3) 地域で認知症の人とその家族を支えることの大切さを伝えたい
- 4) 認知症の人の支えを通して、地域全体で誰もが安心して暮らせるために支え合うこと、助け合うことの大切さを伝えたい
- 5) 認知症の人や高齢者への敬いの気持ち、人はみな個人として価値ある尊い存在であることを伝えたい



認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議宣言

- 1 わたしたちは、認知症を自分のこととしてとらえ、学びます。
- 2 わたしたちは、認知症の人の不安や混乱した気持ちを理解するよう努めます。
- 3 わたしたちは、認知症の人が自由に町に出かけられるよう、応援します。
- 4 わたしたちは、認知症の人や家族が笑顔で暮らしていけるよう、いっしょに考えます。
- 5 わたしたちは、市民や企業人としてできることを行い、安心して暮らせる町づくりをめざします。

情報窓口

各種情報の窓口は、国際長寿センター 担当: 志藤、大上、鹿嶋、渡辺まで、
お願いいたします。

TEL/FAX: 03-5941-1031/03-5941-1032

E-mail: ilc-japan@mba.sphere.ne.jp

100人会議メンバーの方々へ

事務局や関係団体の動きをお知らせ
します。

▽100人会議

<http://www.ninchisho100.net>

▽認知症サポーター100万人キャラバン

<http://www.caravanmate.com>

▽町づくりキャンペーン

<http://www.dcnnet.gr.jp/campaign/>

▽だいじょうぶネット

<http://www.dai-jobu.net/>

▽メルマガ又はFAX通信

(いずれか選択された方法にて)

2ヶ月に1回程度 配信予定

100人会議メンバーの方々から

各団体や企業等での独自の取り組み
があれば教えてください。

キャラバンの受け入れや、キャンペーンへ

の協力方法などについてお尋ねがあれば、
お寄せください。

第1回「認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議」報告資料

2005年7月

認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議 事務局

表紙写真提供: 福祉新聞社

「認知症を知る1年」キャンペーン

認知症になっても安心して
暮らせる町づくり100人会議

当日配付資料

第1回「認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議」

■日 時：平成17年7月8日（金） 午後1時30分～午後4時30分

■場 所：霞ヶ関東京會館（霞ヶ関ビル35階）

第1部 シルバースタールーム／第2部 ゴールドスタールーム

◆第1部 100人会議 <1時30分～2時45分>

1. 開 会
2. 100人会議の経緯及び趣旨、役割について
3. 100人会議の規約について
4. 100人会議の議長選出について
5. 認知症への名称変更と今後の認知症対策について
6. 講演「認知症とは？」
7. 認知症サポーター100万人キャラバンについて
講座デモンストレーション（協力：近江八幡市）
8. キャンペーングッズ等の紹介
9. 100人会議の会員紹介等
10. 100人会議宣言
11. 閉 会

◆休 憩（5分）

◆第2部 キャンペーン キック・オフ イベント <2時50分～4時30分>

1. 開 会
2. <地域活動報告①>
「みんなでつくろう！
ひとにやさしい川崎のまち」
(神奈川県川崎市)
・「劇団SOS」による認知症寸劇上演
3. <地域活動報告②>
「『もの忘れ散歩のできるまちほんべつ』
をめざして」
(北海道本別町)
・本別町認知症高齢者支援システムの紹介
4. <地域活動報告③>
「いつだって心は生きている～大切なものを見
つけよう～」(福岡県大牟田市)
・癒しコンサート
(子どもたちとともに作った認知症ケア教室
での絵本の朗読と音楽、対談)
5. 閉 会

100人会議の経緯

昨年12月24日

「痴呆」に替わる用語に関する検討会報告書とりまとめ

〈検討会メンバー〉

(五十音順・敬称略)

井部 俊子	聖路加看護大学長
(座長) 高久 史麿	自治医科大学長 日本医学会長
高島 俊男	エッセイスト
辰濃 和男	日本エッセイスト・クラブ専務理事
野中 博	日本医師会常任理事
長谷川和夫	高齢者痴呆介護研究・研修東京センター長
堀田 力	さわやか福祉財団理事長

報告書(抜粋(抄))

○用語変更の広報に併せて、「認知症」の症状や特性(例えば、「何もわからない」状態になってしまうのではないこと等)について正しい情報を伝え、誤解や偏見をなくしていくようにすることが重要である。

さらにまた、家族の関わり方や地域住民の接し方、早期発見・早期診断の重要性、外部の介護サービス活用の効果等についても、わかりやすく情報を届ける必要がある。

○こうしたことから、厚生労働省においては、地方自治体や関係機関・団体等と協力して、例えば、来年4月からの1年間をキャンペーンイヤー(例:「認知症を知る1年」)と位置づけるなどして、効果的な広報・情報提供が行われることを要望する。

今年4月14日

認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100人会議発起人会

〈発起人会メンバー〉 上記検討会メンバー＋

100人会議の
設置を決議

大島伸一(国立長寿医療センター総長)

柴山漢人(認知症介護研究・研修大府センター長)

長島紀一(認知症介護研究・研修仙台センター長)

100人会議の趣旨・役割

認知症になっても安心して暮らせる
町づくり100人会議

会員(100人+α*)

*趣旨に賛同した新たな会員を迎える。

発起人(幹事)会

○堀田力(議長)
○長谷川和夫
○井部俊子
○大島伸一
○柴山漢人
○高島俊男
○高久史麿
○辰濃和男
○長嶋紀一
○野中博
(敬称略:五十音順)

各界有識者

地域生活関連
企業・団体

保健・医療・福祉等
団体

事務局

- ☐ 国際長寿センター
- ☐ 認知症介護研究・研修東京センター
- ☐ 呆け老人をかかえる家族の会
- ☐ 厚生労働省老健局

【100人会議の趣旨・役割】

100人会議は、厚生労働省が提唱する「認知症を知る1年」キャンペーンの趣旨に賛同し、その推進を応援する民間の個人や団体を中心とした運動体である。

具体的な役割は、メンバーそれぞれの立場を活かしながら認知症に関する知識や情報の普及、認知症になっても暮らし続けられる地域づくりを応援することなどである。

【本年度の主な取り組み】

- (1) 宣言文、シンボルマーク等の普及
- (2) 「認知症サポーター100万人キャラバン」活動の普及・協力
- (3) キャンペーンの趣旨に添った各メンバー独自の取り組み

「認知症を知る1年」キャンペーン

17年4月の
厚生労働省資料を
基に作成

「認知症サポーター100万人キャラバン」による住民・職域・学校講座

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005

認知症の人「本人ネットワーク」支援

認知症の人や家族の力を活かしたケアマネジメントの推進

このほか、認知症予防と早期発見による継続的な地域ケアマネジメントシステムの構築、介護サービスの質を向上させるための人材育成、認知症の人の権利を守り尊厳を支える取り組みなどを推進していく。

上記のキャンペーンは、「認知症を知り、地域をつくる10ヵ年」の構想につながるものである。

「認知症を知り 地域をつくる10ヵ年」の構想

2005年4月スタート

17年4月の
厚生労働省資料を
基に作成

2005年
「認知症
を知る
1年」

2005年度 到達目標

多くの住民が認知症について以下のことを知り、各自なりの対応・支援を考えていくための素材づくり、地域づくりのモデルができている。

- ・認知症の特徴
- ・認知症になっても自分らしく暮らせること
- ・認知症予防に有効と思われること
- ・認知症になったのではないかと思ったときの対応
- ・認知症になったときの対応
- ・認知症の人の暮らしを地域で支えることの重要性と可能性

「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」

中間年

2009年度 到達目標

○認知症について学んだ住民等が100万人程度に達し、地域のサポーターになっている。

○認知症になっても安心して暮らせるモデル的な地域(以下のような地域)が全国各都道府県でいくつかできている。

- ・認知症であることをためらいなく公にできる。(早期発見・早期対応)
- ・住民や町で働く人々による(ちょっとした助け合い)が活発。
- ・予防からターミナルまで、関係機関のネットワークが有効に働いている。
- ・かかりつけ医を中心とした地域医療ケアチームがきめ細やかに支援している。
- ・徘徊する人を町ぐるみで支援している。

「認知症を知り 地域をつくる10ヵ年」

2014年度 到達目標

認知症を理解し、支援する人(サポーター)が地域に数多く存在し、すべての町が認知症になっても安心して暮らせる地域になっている。

認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議規約(案)

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この会議は、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議」(以下「100人会議」という。)と称する。

(目 的)

第2条 100人会議は、「認知症」に関する正しい知識の普及や情報の提供等を通じ、認知症の人とその家族を支え、見守り、ともに生きる地域社会の実現に資することを目的とする。

(活 動)

第3条 100人会議は、(1)認知症に関する正しい知識の普及、情報の発信、(2)認知症になっても暮らし続けられる地域づくりの応援、(3)その他前条の目的を達成するために必要な活動を行う。

第2章 会 員

(会 員)

第4条 100人会議の会員は、次の各号に掲げる会員によって構成する。

- (1)各界有識者
- (2)地域生活関連企業・団体
- (3)保健・医療・福祉等団体
- (4)その他

2 会員のほか、協力員及び協力企業を置くことができる。

(入 会)

第5条 100人会議の会員になろうとする者は、幹事会の承認を得なければならない。

(会 費)

第6条 会員の会費は、これを要しない。

(退 会)

第7条 会員は、退会を申し出たときに、100人会議を退会する。

(除 名)

第8条 100人会議の名誉を著しく傷つけ、又は倫理に反する重大な行為があった会員に対しては、100人会議から除名することができる。

第3章 組 織

(議長)

第9条 100人会議に議長を置く。

2 議長は、会議で会員の互選により選出する。

(幹事会)

第10条 100人会議に幹事会を置く。

2 幹事会は、議長及び幹事若干名をもって構成し、幹事は議長が指名する。

3 幹事会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1)会議に提出する案件に関する事項
- (2)会員の入会に関する事項
- (3)その他

第4章 会 議

(会 議)

第11条 100人会議の会議は、議長が招集する。

2 100人会議の会議は、出席者の過半数により議決する。

第5章 規約の改正等

(規約の改正)

第12条 この規約を改正するときは、幹事会の発議により、会議において議決しなければならない。

(事務局)

第13条 100人会議の庶務を処理するため、国際長寿センターに事務局を置く。

付 則

この規約は、平成17年7月8日から施行する。

認知症への名称変更と今後の認知症対策について

平成17年7月8日

厚生労働省老健局長

中村秀一

認知症への名称変更

「痴呆」という用語

○ 「dementia」の訳語として明治41年頃から徐々に定着、一般化。

- 1 侮蔑的な表現、高齢者の尊厳に欠く表現。
- 2 「痴呆」の実態を正確に表していない(状態や症状について、誤解を招く表現)。
- 3 早期発見・早期診断等の取り組みの支障となっている。

○ 認知症対策の施策の実施上、現実の支障となっている。